



片柳研究所CMCセンター
特別研究教授
田中義久

主な学会発表
論文・著書・社会活動

- [1] Tensile loading-unloading behavior in SiC/SiC CMC at room and elevated temperature in air using a new mechanical testing machine. Ceramic Matrix Composites II, Santa Fe, NM USA, Nov. 13-18 2022.
- [2] Measurement method of in-situ tensile strength of SiC fiber in SiC/SiC composite. Ceramic Matrix Composites II, Santa Fe, NM USA, Nov. 13-18 2022.

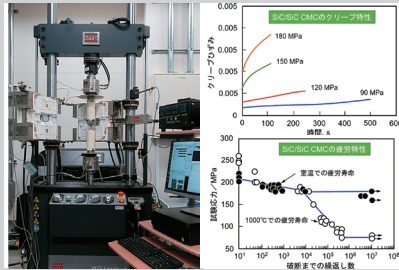
セラミックス基複合材料の力学試験技術



KEYWORDS 二酸化炭素削減、省エネルギー、高温構造材料

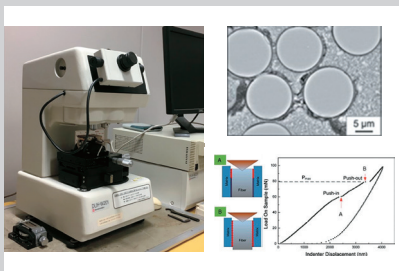
CMCの信頼性を確保し、安全に利用するための試験・検査に関する技術開発が重要となります。ここでは航空機用エンジン部材としてCMCを利用する際の実際環境を想定した試験評価技術、構成素材の力学試験評価、および界面の力学特性測定手法の開発などに取り組んでいます。

01 世界最高峰の高温力学特性試験技術



世界最高峰の高温力学特性試験装置を用いて、複合化プロセスにより形成されたバルク材の力学試験をASTM規格により評価します。室温～1500℃までの温度域で応力-ひずみ関係を計測し損傷との関係を調べています。CMCの引張・疲労・クリープなどの試験法の確立や変形・破壊挙動のメカニズム解明を行っています。寿命予測への支配因子や信頼性確保のためのデータ構築も行っています。

02 界面の力学特性測定法



CMCでは繊維とマトリックスの界面の働きが重要となります。界面での力の伝達能力を定量的に評価するために繊維1本におけるせん断強度特性を評価しています。局所的な荷重-変位曲線から弾性率評価にも応用できます。

03 単繊維および微小試験片の力学試験技術



複合材料の強化素材として用いられる直径十ミクロン程度のセラミックス繊維や有機繊維などの力学特性、ミニコンポジットなどの微小試験片での力学特性や試験評価技術の開発も行っています。

想定される活用例、相談可能な分野

- 超高温材料の引張、疲労、クリープなど特性評価
- 微小領域における硬さ、弾性率、破壊靱性などの力学特性評価
- バイオ材料、CFRPなど微小試験片を利用した力学特性評価